

4歳～5歳頃のからだところの育ち

この時期の子どもの特徴

全身の運動

この頃には、ケンケンでは、どちらの足でも同くらいの距離を進めるようになります。さらに左手で押さえながら右手を動かすことや、手と足をうまく使う力が高まることで、ヒモを結ぶ、鉄棒、なわとびなどにつながっていきます。

ことばと交流

ジャンケンの勝ち負けなどのルールや、相手との約束を意識するようになります。ごっこ遊びでは友だちとの間で、それぞれの役や場所などを「～ってことな」と決めごとをして遊ぶようになります。ルールからはみ出す子には厳しく接し、一方で小さい子には優しくお世話をします。ことばの面では「だって～やもん」「～やからや！」と理由を自分で考えたり、「えーっとな、えーっとな」とつなぎながら話をしたりします。数は、4個程度選びとり、物を一つずつ対応させて数えることができるようになります。

手を使う力

道具を使う力が上手になってきます。例えばハサミでは、直線にそって切るだけでなく、曲線にそって円形に切り抜きます。折り紙や掃除など、手に込める力の調節が必要な活動や、あやとり、調理など、指先の細かい動作を、積極的に経験させていきましょう。文字を読むことや書くことに関心を持ち始める時期には個人差がありますが、これらの手の働きや、見て形をとらえる力が高まることは、文字を覚えるための土台の一つです。

がんばる力と心の揺れ

3歳児の頃に、しっかりと自己主張やぶつかり合いを経験してくる中で、この時期になると、相手の評価に敏感になります。期待にこたえたい、と自らを励ましながらがんばる一方で、自信がないときは、ついふざけてしまったり、甘えたり、もじもじしたりします。こうした相反する姿も、こころの揺れとして受けとめ、させようと焦らず、子ども自身が達成感を感じることを大事にしたいものです。

こんな心配がある方はご相談ください

たとえば・・・

- ことばが遅いように感じる
- ボタンなど着替えや、丸を描いたり切り抜いたりが多い
- 数や色がわからない

- じっとしているべきところで身体が動いてしまう
- 行動が乱雑でよくケガをする
- 友達とうまく遊べない

- 会話がかみあわない
- 特定の関心が強く一方的に話す
- 経験したことを話しながら絵を描かない

- 身長や体重が母子手帳の成長曲線でみると、かなり大きい、または小さい

- 身近な人でないとしゃべっている内容がききとれない
- 力行など特定の発音がうまく言えない